

3 小学校各教科の調査結果の概要及び今後の指導について

(1) 国 語

ア 個々の問題の概要及びその通過率

—評価の観点—	
話・聞	話す能力・聞く能力
書	書く能力
読	読む能力
言語	言語についての知識・理解・技能

学習指導要領の内容	問題番号	出題のねらい	評価の観点	設定通過率 (%)	通過率 (%)	
話すこと・聞くこと イ	1	一	話し手の意図を考えながら、話の内容を聞き取ることができる。	話・聞	75.0	69.7
		二		話・聞	75.0	93.2
		三		話・聞	70.0	61.5
言語事項 ア	1	(1)	学年別漢字配当表の当該学年までに配当されている漢字を読むことができる。	言語	70.0	90.2
		(2)		言語	70.0	82.9
		(3)		言語	80.0	69.4
		(4)		言語	80.0	98.5
	2	(1)	前の学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書くことができる。	言語	70.0	81.1
		(2)		言語	70.0	50.7
		(3)		言語	70.0	67.5
		(4)		言語	75.0	82.9
言語事項 イ (ウ)	3	(1)	日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、また、ローマ字で書くことができる。	言語	75.0	61.6
		(2)		言語	70.0	80.3
言語事項 オ (ウ)	4	(1)	文と文との意味のつながりを考えながら、指示語や接続語を使うことができる。	言語	70.0	93.2
		(2)		言語	70.0	93.1
言語事項 エ (イ)	5	(1)	表現したり、理解したりするために必要な語句について、辞書を利用して調べる方法を理解している。	言語	70.0	51.0
		(2)		言語	70.0	71.3
言語事項 オ (ア)	6	(1)	修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な内容を理解している。	言語	80.0	75.3
		(2)		言語	60.0	51.2
読むこと ウ	3	一	場面の移り変わりや情景を、叙述を基に想像しながら読むことができる。	読 む	80.0	52.4
		二		読 む	60.0	31.0
		三		読 む	75.0	56.5
		四		読 む	75.0	43.9
読むこと オ	4	一	目的に応じて、必要なところは細かい点に注意して文章を読むことができる。	読 む	60.0	60.4
		二		読 む	60.0	75.5
読むこと イ	4	三	目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係を考え、文章を正しく読むことができる。	読 む	50.0	22.3
		四		読 む	70.0	63.0
書くこと アイウエ	5	相手や目的に応じて、適切に書くことができる。書く必要のある事柄を収集したり選択できる。書こうとするものの中心を明確にして書くことができる。	書 く	60.0	59.7	

イ 個々の問題の教育事務所管内・地区別通過率

問題番号	問題の内容	設定 通過率	東 青 管 内			西 北 管 内					
			青森市	東郡		五所川原市	つがる市	西・北郡			
1	一	話の内容を聞く。(全体の構成)	75.0	67.7	68.2	60.8	71.8	73.4	71.8	70.0	
	二	話の内容を聞く。(水洗いの内容)	75.0	93.5	93.4	95.0	92.6	93.4	93.5	91.2	
	三	話の内容を聞く。(干すときの内容)	70.0	58.4	58.6	55.8	61.3	57.7	62.9	64.5	
2	一	(1) 「整(える)」の読み方	70.0	90.5	90.7	87.3	89.3	91.6	91.4	85.5	
		(2) 「気配」の読み方	70.0	84.5	84.9	79.0	80.2	83.4	76.3	78.8	
		(3) 「川下」の読み方	80.0	68.6	69.4	55.8	68.8	72.5	62.2	68.6	
		(4) 「建(つ)」の読み方	80.0	98.0	98.0	97.8	98.1	97.9	98.3	98.4	
	二	(1) 「びょういん」の書き方	70.0	78.6	79.0	72.9	79.3	78.6	78.0	80.8	
		(2) 「しめい」の書き方	70.0	53.0	53.6	43.6	44.0	45.9	43.6	42.0	
		(3) 「いんざつ」の書き方	70.0	67.8	68.0	65.2	49.0	46.1	54.6	49.0	
		(4) 「べんり」の書き方	75.0	82.4	83.0	73.5	81.2	79.6	81.4	82.9	
	三	(1) ローマ字「hakutyô」の読み方	75.0	62.7	62.7	63.0	61.7	63.4	61.5	60.0	
		(2) 「すいか」のローマ字での書き方	70.0	79.7	79.9	77.3	84.2	85.0	86.3	82.0	
	四	(1) 接続語「だから」の適切な使い方	70.0	92.7	92.7	93.4	93.8	94.3	95.2	92.4	
		(2) 接続語「しかし」の適切な使い方	70.0	93.3	93.4	92.3	93.7	93.6	95.2	92.9	
	五	(1) 国語辞典の使い方	70.0	50.5	51.1	42.5	51.1	50.5	50.2	52.2	
		(2) 国語辞典の使い方	70.0	73.2	73.7	65.2	69.8	71.1	66.7	70.2	
	六	(1) 主述の関係	80.0	75.3	75.4	74.0	79.2	83.9	78.7	74.1	
		(2) 修飾と被修飾の関係	60.0	50.3	50.3	50.8	61.4	71.1	51.5	56.1	
	3	一	叙述を基に想像して読む(場面の設定)	80.0	53.8	54.5	44.8	48.4	50.0	46.0	48.0
		二	叙述を基に想像して読む(登場人物の行動)	60.0	28.9	29.1	26.5	29.2	32.3	23.0	29.2
三		叙述を基に想像して読む(「しげしげと」の意味)	75.0	58.3	58.8	50.3	64.4	66.8	59.5	64.5	
四		叙述を基に想像して読む(登場人物の気持ち)	75.0	45.0	45.3	40.3	41.4	42.9	45.0	37.6	
4	一	細部の読み(「マッスルスーツ」の活用)	60.0	60.4	61.2	48.6	60.9	64.8	60.1	56.7	
	二	細部の読み(「うれしなみだ」の理由)	60.0	74.8	74.7	75.7	76.1	81.4	75.3	70.6	
	三	事実と意見の関係	50.0	22.4	22.8	16.6	21.8	22.3	18.6	23.1	
	四	要旨の選択	70.0	61.9	62.4	54.7	65.9	69.1	64.6	63.1	
5		目的に応じた表現(環境への考え)	60.0	58.7	58.0	69.6	65.5	67.9	69.8	60.4	
教 科 全 体			70.0	67.3	67.6	63.3	67.3	68.9	66.5	65.9	

(単位：%)

中 南 管 内					上 北 管 内				下 北 管 内			三 八 管 内			県全体
弘前市	黒石市	平川市	中・南郡		十和田市	三沢市	上北郡		むつ市	下北郡		八戸市	三戸郡		
72.2	72.3	72.3	69.9	74.3	67.6	72.9	65.7	65.2	68.2	68.4	67.3	70.3	70.2	70.9	69.7
93.0	93.3	92.8	94.6	90.1	93.7	94.3	93.3	93.4	94.8	95.0	94.0	92.6	92.4	93.1	93.2
68.4	71.6	56.5	75.6	58.8	63.9	69.1	66.4	59.5	57.4	60.7	45.3	58.1	58.0	58.4	61.5
90.5	91.0	90.5	89.3	89.3	89.6	90.5	88.5	89.5	94.7	94.3	96.0	89.5	90.2	86.5	90.2
81.9	80.5	82.4	82.3	88.6	81.9	84.2	82.3	80.4	82.4	82.8	81.3	84.0	83.9	84.3	82.9
70.6	68.3	72.3	74.2	76.5	61.4	64.5	56.1	61.8	72.7	73.9	68.0	74.3	74.6	73.3	69.4
99.0	99.0	98.0	99.7	99.6	98.6	98.7	98.6	98.5	99.1	99.1	99.3	98.7	98.7	98.8	98.5
84.1	84.7	82.7	83.9	82.7	80.6	86.8	73.1	80.0	82.6	82.4	83.3	81.9	82.3	80.5	81.1
54.3	51.3	61.4	59.5	56.3	45.5	46.1	43.2	46.0	58.8	62.9	44.0	50.1	50.0	50.4	50.7
64.5	61.4	69.2	72.9	66.2	73.3	74.8	72.9	72.5	65.0	65.3	64.0	74.8	73.2	80.9	67.5
83.4	83.7	83.3	82.6	82.7	80.9	82.7	79.1	80.6	87.9	88.4	86.0	83.9	83.5	85.8	82.9
62.4	61.6	61.7	65.2	64.7	63.0	67.0	57.1	63.1	65.8	66.4	63.3	57.9	58.6	55.0	61.6
81.9	80.7	85.6	82.6	82.7	80.3	85.1	75.3	79.3	79.4	78.7	82.0	77.9	77.4	79.9	80.3
93.1	92.8	93.9	90.3	97.1	94.4	97.1	94.2	92.8	92.7	93.4	90.0	92.8	92.4	94.4	93.2
93.2	92.4	95.7	91.3	96.3	93.9	96.6	93.0	92.5	91.4	91.9	89.3	92.6	91.6	96.4	93.1
51.2	51.7	53.3	48.2	48.9	50.6	50.2	54.9	49.0	55.0	58.2	43.3	50.4	49.8	52.6	51.0
68.9	68.4	72.9	66.9	68.8	70.6	71.6	73.4	68.9	71.9	74.3	63.3	72.5	72.7	71.6	71.3
74.5	71.9	81.0	74.6	80.1	76.6	86.6	66.2	74.8	77.3	76.5	80.0	72.7	71.6	76.8	75.3
50.1	47.8	55.9	53.5	51.5	55.7	66.0	52.8	50.5	53.5	52.8	56.0	44.4	44.0	45.9	51.2
51.6	53.8	46.1	46.2	52.9	51.7	53.4	51.8	50.6	50.6	51.0	49.3	54.3	54.8	52.3	52.4
31.5	30.9	33.1	30.8	33.5	29.0	31.2	27.6	28.2	37.6	38.9	32.7	33.3	33.2	33.7	31.0
54.9	56.0	51.6	53.8	54.0	54.7	55.9	55.6	53.6	57.8	59.1	53.3	53.5	54.5	49.7	56.5
44.5	46.8	39.8	45.8	37.1	44.9	48.4	41.5	44.2	44.7	44.8	44.7	42.5	42.3	43.5	43.9
61.0	62.0	54.8	68.9	55.1	59.2	67.2	59.5	54.2	64.6	61.7	75.3	59.5	60.9	54.1	60.4
78.2	79.1	75.2	83.3	72.1	76.5	76.3	76.5	76.6	78.1	79.6	72.7	72.2	72.2	72.3	75.5
21.9	22.7	21.6	22.7	17.3	22.1	24.5	22.8	20.2	23.9	24.8	20.7	22.3	22.3	22.3	22.3
63.2	63.3	64.3	62.2	62.5	62.1	63.4	66.2	59.6	60.0	59.6	61.3	63.8	63.8	63.8	63.0
62.8	63.1	58.5	62.5	66.9	62.3	72.7	54.4	59.1	56.8	55.2	62.7	54.1	53.5	56.3	59.7
68.1	67.9	68.1	69.1	68.1	67.3	70.6	65.8	65.9	68.7	69.3	66.7	67.0	66.9	67.3	67.5

ウ 内容・領域別結果の概要

内容・領域	問題数 (問)	通過率の高かった 問題(10問)	通過率の低かった 問題(10問)	各内容・領域 の通過率(%)	設定通過率 (%)
話すこと・ 聞くこと	3	1二		74.8	73.3
書くこと	1		5	59.7	60.0
読むこと	8	4二	3一、3二、3三、 3四、4一、4三	50.6	66.3
伝統的な言 語文化と国 語の特質に 関する事項	16	2一(1)、2一(2)、 2一(4)、2二(1)、 2二(4)、2三(2)、 2四(1)、2四(2)	2二(2)、2五(1)、 2六(2)	75.0	71.9

内容・領域別にみると、県の平均通過率と比較して通過率が高かったのは、「話すこと・聞くこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」であり、通過率が低かったのは、「書くこと」、「読むこと」である。

設定通過率と比較すると、同程度だったのは、「話すこと・聞くこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」であり、下回ったのは、「書くこと」、「読むこと」である。

エ 評価の観点別結果の概要

評価の観点	問題数 (問)	通過率の高かった 問題(10問)	通過率の低かった 問題(10問)	各観点の 通過率(%)	設定通過率 (%)
話す能力・ 聞く能力	3	1二		74.8	73.3
書く能力	1		5	59.7	60.0
読む能力	8	4二	3一、3二、3三、 3四、4一、4三	50.6	66.3
言語につい ての知識・ 理解・技能	16	2一(1)、2一(2)、 2一(4)、2二(1)、 2二(4)、2三(2)、 2四(1)、2四(2)	2二(2)、2五(1)、 2六(2)	75.0	71.9

観点別にみると、県の平均通過率と比較して通過率が高かったのは、「話す能力・聞く能力」、「言語についての知識・理解・技能」であり、通過率が低かったのは、「書く能力」、「読む能力」である。

設定通過率と比較すると、同程度だったのは、「話す能力・聞く能力」、「書く能力」、「言語についての知識・理解・技能」であり、下回ったのは、「読む能力」である。

オ 個々の問題の主な誤答例とその原因

問題番号	通過率(%)	設定通過率(%)	主な誤答(無答を含む)例 (カッコ内の数字は、抽出した解答全体に占める誤答の割合・%)	
2	二(2)	50.7	70.0	「指命」(11.5)、無答(9.0)、「氏名」(8.0)、「司」(1.0)、「配名」 「指示」「氏命」「示めい」「示明」「示指」「司名」「仕面」「途い」「低 名」「命令」(以上で0.5)
2	五(1)	51.0	70.0	ウ「静止」(23.5)、ア「信用」(22.5)、無答(1.0)
3	二	31.0	60.0	「さんざおいまかれて、命からがらにげたことでした。」を 要約したもの(18.5)、無答(15.0)、「母さんぎつねはどうして も足が進まないのでした」を要約したもの(13.0)
3	四	43.9	75.0	ウ(47.0)、ア(6.0)、イ(3.5)、無答(1.0)
4	三	22.3	50.0	◇誤答一つ(37.0)、誤答二つ(22.0)、全て誤答(14.5) ◇段落⑤(30.0)、段落⑥(24.5)、段落⑦(23.5)、段落③ (22.0)、段落②(17.0)、段落①(16.5)

- 2 二(2)について

誤答の原因として、音声言語として理解している語彙を文字言語として理解する経験が不足していることが考えられる。形式的に漢字を覚えてはいるものの、多様な活動(読書活動、書く活動、辞書を利用して調べる活動など)を通して、いろいろな場面における漢字の使い方に触れる経験が不足していることが考えられる。

- 2 五(1)について

誤答アの原因として、イを「せいたい」と読んでしまったことが考えられる。誤答ウについては、「静止」の二文字目の「い」だけで順番をとらえてしまったこと、「正体」の拗音「しょ」を一文字としてとらえてしまったことなど、漢字の誤読が原因だったことが考えられる。

- 3 二について

誤答の原因として、お母さんの「気持ちが表れている行動」を問われていることに対し、お母さんが思い出した内容を答えてしまったことが考えられる。また、「その町の灯を見たとき、～思い出しました」を、前の叙述との関連から読んでいなかったことが考えられる。そのほか、文中から書き抜く問題に対して、自分で文言を考え記述した回答が多かった。

- 3 四について

誤答ア及びイの原因として、文章の中に何度か違う意味で出てくる「手」が、人間の手を指しているのかきつねの手を指しているのか読み取れていないこと、また、誤答ウの原因として、町の灯を見たときにお母さんが思い出したことが理解できていないものと考えられる。

- 4 三について

「おもに筆者の意見が書かれている」3つの段落のうち、段落2つまでの正答が4割近くあった。形式段落⑤が誤答として一番多かったが、これは文中に「考えたものです。」とあり、短絡的に選択していることが分かる。次に多かった形式段落⑥にも「～のです。」という表現があり、文のつながりよりも文末表現で答えているということが考えられる。

カ 今後の指導について

内容・領域別に見た課題としては、他と比較して、特に通過率の低かった「読むこと」の充実が挙げられる。

今後の学習指導においては、特に以下の指導が重要である。

「読むこと」・目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。

・登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。

評価の観点別にみた課題としては、「読む能力」の育成が挙げられる。

個々の問題の誤答傾向からみた課題として、「話すこと・聞くこと」については、話の目的や意図は何か、自分に伝えたいことは何かなど相手の話の内容を十分聞き取る能力の育成が挙げられる。

今回の問題のお話の設定が、学校でとれた梅で梅ぼしを作ることにしたので、地域の名人から作り方を教えていただくことになった、ということになっていることにも注目したい。ここでは、聞き手が「作り方を教えていただく」という目的をもって聞いており、話し手は、話の冒頭で「作り方を3つに分けて順番に説明します」と述べてから説明を始めている。今後の学習指導においては、話し手が知らせたい事柄を聞き取るという観点だけでなく、聞き手が知りたい事柄という観点で話の要点、気付いたことなどをメモする学習を国語科や他教科等で意図的、計画的に経験させていくことが必要である。

「漢字の読み」については「川下」の読みの通過率がやや低かった。「整える」は、平成18年度の調査を上回っていた。また、「書き」については「しめい」が低かった。

今後の学習指導においては、国語科及び他教科等における読書活動や書く活動を通して、表現したり理解したりするために必要な語句を増やすとともに、辞書を利用して調べる方法を理解し、調べる習慣を付けることが大切である。その際、国語辞典や漢字辞典などの使い方を理解するとともに、必要なときにはいつでも辞書が手元にあり使えるような言語環境をつくっておくことが重要である。

「修飾と被修飾の関係」については、昨年度に比べ5ポイント余り向上が見られた。しかし、まだ十分とはいえない。指導にあたっては、言葉の特徴やきまりに関する事項の単元のほか、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域の学習においても適切な場面をとらえて、繰り返し指導し、理解させていくことが必要である。

その際、留意しなければならないのは、教師が一方的に解説するのではなく、声に出して読んだり、書いたり、話し合ったりする活動を通して、言葉の働きや性質に気付かせていくことが大切である。

(例) わがやの ねこは、 じょうずに 大きな ねずみを とらえた。

上の例で修飾する言葉をさがす指導を紹介する。

①「じょうずに」を文の一番最後の言葉「とらえた」の前に置いてみる。

②音読をして、意味が変わらないことを確かめる。

※ 他の文で、修飾部を最後の文節に置いて意味が通らなくなってしまう場合には、一つ前の文節に移動させていく。

③いくつかの例題をもとに、修飾語は被修飾語の前にあることに気付かせる。

指導例

「登場人物の行動から気持ちを想像する」読み方の指導

やがて、ゆくてにぼつり、**明かり**が一つ見え
始めました。それを子どもの**きつね**が見つけて、

「母ちゃん、**お星様**は、あんな低い所にも落ちてるのねえ。」
と聞きました。

明かりが、お星様と思うなんて、本当に何も知らないのだなあ。

「あれは**お星様**じゃないのよ。」

と言って、そのとき、母さん**きつね**の足はすくんでしまいました。

どうしたのかな。いやなことでもあったのかな。明かりを見たことと関係があるのかな。

「あれは**町の灯**なんだよ。」

その**町の灯**を見たとき、母さん**きつね**は、あるとき町へお友達と出かけて行って、とんだめにあったことを思い出しました。およしなさいって言うのも聞かないで、お友達の**きつね**が、ある家のあひるをぬすもうとしたので、お百しように見つかって、さんざ追いまくられて、命からがらにげたことでした。

お母さんは、殺されそうになったことを思い出したのだね。

「母ちゃん何してんの、早く行こうよ。」

と、子どもの**きつね**がおなかの下から言うのですが、母さん**きつね**はどうしても足が進まないのです。

※ []は、書き込みを表す。

場面や情景の移り変わりとともに変化する登場人物の気持ちを読むことに関する問題の通過率が、31.0%と低かった。場面と場面、登場人物の行動や会話などを関連付けて読む能力を育成する必要がある。

指導例では、文章を読みながら、行間に書き込みをしていく事例を示した。児童に読みながら考えたことを書き込ませていく。書かせる内容は、読者としてのつぶやきや母さん**きつね**に同化して想像したことなどが考えられる。書かせた後で、書き込んだことを織り交ぜながら音読の発表をし合ったり、考えを交流したりすることにより、叙述を基に想像して読む能力が高まっていく。

また、「明かり」「お星様」「町の灯」と同じものの呼ばれ方が変化していくこと、「そのとき」とはいつか、足がすくんだ理由などを、線で結んでいくことで、関連付けて読む力が高まる。

指導例

「事実と意見の関係」のとりえ方

(1) 文章構成から (丸数字は形式段落)

①話題提示 2つの「着るロボット」の紹介

②「マッスルスーツ」の仕組み

③「マッスルスーツ」の活用例

④ ②③を根拠としての「マッスルスーツ」についての筆者の意見

⑤「アクティブ歩行器」の仕組み

⑥「アクティブ歩行器」の活用例(1)

⑦「アクティブ歩行器」の活用例(2)

⑧ ⑤⑥⑦を根拠としての「アクティブ歩行器」についての筆者の意見

⑨まとめ ①～⑧を根拠としての「着るロボット」についての筆者の意見

(2) 記述の仕方の違いから

「事実」…現実の事象・出来事、科学的事実、社会的・歴史的事実、自分が直接経験した事実、間接的に見聞したり読んだりして得た間接的な事実など。

「意見」…断定的な意見、推論による不確定的な意見、助言、勧告、提案など。

○自分の力だけを使ったときにくらべて、最大で2倍から3倍の重さのものを持ち上げることができます。(科学的事実)

○それが、「アクティブ歩行器」で2日間訓練したら、歩行器の助けを受けて歩けるようになったのです。(断定的な意見)

○「マッスルスーツ」は、どのように活用できるのかを説明しましょう。(勧告)

「事実と意見との関係を考えて読む」ことに関する問題の通過率が、22.3%と低くなっている。

この問題は、事実と意見とがどのように区別されているのかを把握したり、文章における事実と意見の記述の違いに気付いたりする能力が必要である〔指導例(2)記述の仕方の違いから〕。そして、筆者がこのような「事実」をどのように取り上げ、またそれらについての「意見」をどのように述べているかを、文章の内容や構成を把握することから考えることが重要となる〔指導例(1)文章構成から〕。「事実」に対して、「意見」を表す語句、文、段落を取り出し、これを関係付けながら、筆者がどのような「事実」を原因や理由として挙げ、それについてどのような考えや意見を述べようとしているのかをつかませる指導を継続して行いたい。

「書くこと」については、学習指導要領に、高学年では「事実と感想、意見などを区別するとともに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりすること」、「引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと」が示されている。高学年では、「事実」と自分の感想、意見などを区別して書く能力の育成を特に重視しており、指導にあたっては、出来事等の描写と、科学的な観察や実験、説明などとの表現の違いを考えて工夫させるようにしなければならない。

また、文章を引用したり、表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くことも大切である。

設定通過率との比較からみた課題としては、特に「読むこと」の充実が挙げられる。

文学的な文章では、叙述を基にして、場面の設定、登場人物の行動や気持ちを読み取る問題を出題した。場面の設定を読み取る問題は52.4%、登場人物の気持ちが表れている行動を読み取る問題は31.0%、登場人物の気持ちを想像する問題は43.9%と、設定通過率を大きく下回った。物語を一連のストーリーとしてとらえることができるように、一つの場面を前後の場面と関連付けたり、自分の体験や他の読者の解釈と叙述とを関連付けて読む指導をしていくことが必要である。

説明的な文章では、細部を読み取る問題と事実と意見の関係を問う問題、そして要旨を選択する問題を出題した。細部を読み取る問題は67.9%、要旨を選択する問題は63.0%であったが、事実と意見の関係を問う問題は22.3%と、設定通過率を大きく下回った。事実と意見の関係を問う問題に関しては、「書くこと」と併せて、文章構成や叙述を意識した文章を日常的に書かせることも必要である。その際、「主に事実（意見）の文によって構成された形式段落を書く」、「事実をもとにした意見文を書く」、「事実の文か意見の文か分かるように書き方を工夫する」などといった条件を提示して書かせる工夫も必要である。

質問紙調査の結果によると、「国語の勉強は大切だ（どちらかといえば大切だ）」と回答した児童は88.7%、また、「国語の授業がよく分かる（だいたい分かる）」と回答した児童は71.9%である。ところが、「国語の勉強が好きだ（どちらかといえば好きだ）」と回答した児童は、62.8%と低く、平成20年度の結果とほぼ同じ割合となっている。前回の調査同様、「国語の勉強は大切だ」と思うし、授業も分かるけれど、好きではない」という児童の実態は変わっていない。今後とも「楽しい授業、分かる授業」の実践に努めることが必要である。

キ まとめ

国語全体としては、昨年度の問題と比較すると、通過率が昨年度を2.7%上回った。内容領域別で見ると、「話すこと・聞くこと」が14.2%、「書くこと」が14.1%、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が2.3%上昇し、「読むこと」が2.6%、低下した。

設定通過率との比較で見ると、「話すこと・聞くこと」が1.5%、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が3.1%上回り、「書くこと」が0.3%、「読むこと」が15.7%、下回った。

今回の学習指導要領においては、思考力・判断力・表現力等を育むために、各教科等において言語活動を重視していくことが求められている。国語科で培った能力を基本に、すべての教科等において充実することが求められている。国語科は、言語活動の充実の要であり、各領域において、日常生活に必要なとされる記録、報告、紹介、感想、討論などの言語活動を行う能力を確実に身に付けることができるよう、継続的に指導し、問題に応じて必要な文章や資料等を取り上げ、基礎的・基本的な知識・技能を活用し、相互に思考を深めたりまとめたりしながら解決していく能力の育成を図っていくことが重要である。